北海道新聞　31年2月14日（朝刊・小樽後志/18面）

奨励金で留学200人突破

樽商大 独自に4年目

小樽商科大の独自の奨励金制度を利用した留学者数が、4年目で200人を突破した。卒業生の篤志で生まれた奨励金制度で、今月は新たに30人を短期留学でカナダとオーストラリアへ派遣することが決定。8日に奨励金の授与式が行われ、留学する学生たちが抱負を語った。（森川潔）

ＯＢ佐野さん寄付金基に 今月は30人 カナダと豪へ

この制度は、樽商大ＯＢでソフトウエア会社元会長の佐野力さんから母校に贈られた寄付金（総額非公表）を基に2015年度から始まった。希望者に「佐野力海外留学奨励金」を提供し、5万円の自己負担のみで派遣。10年間で600人の派遣を計画している。

今月はカナダのカルガリー大とオーストラリアのウーロンゴン大に15人ずつを派遣する。奨励金の受給者は本年度だけで60人となり、留学者数は計201人に達した。

今回の30人は約1カ月の日程で民泊しながら語学研修などに励む。8日に大学会館で行われた奨励金授与式では、和田健夫学長が代表者2人に目録を手渡し「若いうちに海外に行く経験は大事。このチャンスをぜひ生かしてもらいたい」と激励した。

カナダ組の伊藤巧真（たくま）さん（1年）は「いろんな国の友人をつくりたい」、オーストラリア組の各務綾花（かがむ）さん（2年）は「すらすら英語を話せるようになりたい。コアラなどの動物を見るのも楽しみです」と張り切っていた。

留学奨励金の目録を受け取る学生の代表者